

## 『人と認知症と向き合うということ』

人を見るスキルを高めれば  
支援は高まり充実してくる

## 『繋がるということ』

人と認知症を理解するためのキーワード

## 『前提を考える』

### 『私の中の不思議』

- ・軽度の定義～自分たちの思うようになる人、若しくはおとなしい何も問題のない人
- ・重度の定義～自分たちの思うようにならない人、若しくは問題のある認知症の人
- ・問題の有無の定義～自分たちが安心（思い通りになる人、自分たちの言うことを聞いてくれる人、静かに一日黙って座ってくれている人、自分たちがやってもらいたい役割を気持よくやってくれる人、そもそも帰るなどと言わない人等々）してみれるかみれないかの違い

## 人の姿と認知症

- 姿の捉え方からスタート

どんな姿かと思っているかがその後の関わりや支援  
(介護・ケア) に影響する

**視点（姿の捉え方）は認識を創造し  
認識は経験を創造する**

『人を理解する』

自分自身との繋がりの中で  
最近感じていること

50歳を過ぎた頃から・・・

自覚していること

セルフケアの実際

## 自分自身の変化を感じませんか？

- ・自分の唾液で誤嚥する「へんなところはいった」
  - ・口から出て来る言葉と言いたい言葉が違う  
「車のウォッシャー液をウォシュレットと言う」  
「パトカーをタクシーと言う」
  - ・いろいろ忘れる  
「メガネを頭に掛けて、メガネを探す」  
「カードを口に咥えながら、カードを探す」
  - ・人の名前が覚えられない  
「顔は覚えているが、名前が出てこない」
  - ・筋肉痛が遅れる
  - ・涙もろくなった
- などなど

自分以外の人やものとの繋がりの中で  
ずっと気になっていること

皆さんは  
何と繋がっていると安心ですか？

## なぜ、さわり・ふれるのか ～仮説～

- 失われていく世界とのつながり
- 失われていく自己
- 自分を探す旅
- 誰かと何かと繋がりたい 繋がっていたい
- 繋がっている事での安心するのではないか

人は常に何かと繋がっている  
そのことで様々な関係と  
自分とのバランスを保っている  
(人 物 地域 感じる全てetc)

# 『認知症を理解する』

## 認知症とは（介護保険法上の定義）

（認知症に関する調査研究の推進等）

第五条の二 国及び地方公共団体は、被保険者に対して認知症（脳血管疾患アルツハイマー病その他の要因に基づく脳の器質的な変化により日常生活に支障が生じる程度にまで記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう。以下同じ。）に係る適切な保健医療サービス及び福祉サービスを提供するため、認知症の予防、診断及び治療並びに認知症である者の心身の特性に応じた介護方法に関する調査研究の推進並びにその成果の活用に努めるとともに、認知症である者の支援に係る人材の確保及び資質の向上を図るために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

『点』から『線』へ  
そして『面』への話し

困っているポイントはここ！！

日常生活に支障が生じる

これまでできていたことが  
できたりできなかったりと  
困難と思える状態へと向かう



もっと具体的に  
わかりやすく  
皆さんの  
身近な出来事を通して  
考えてみます

お茶を飲むまで

～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係～

お茶が飲みたいと思う	台所へ歩く
正座の状態からテーブルに両手をつく	お湯を沸かそうと思う
左足は立てひざを保つ	やかんを手にする
右の足の裏を床につける	やかんのふたをとる
テーブルに置いた両手に体重をかける（この時点	やかんの水を入れる口を水道の蛇口に合わせる
で、よっこいしょ！と出る）	左手にやかんを持ち
左の足の裏を床につける	右手で蛇口をひねる
前傾姿勢を両手で支える	水の量を確認しながら適量を入れる
腰を伸ばしながら立ち上がる	やかんのふたを閉める
台所へ向きを変える	

～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係

～

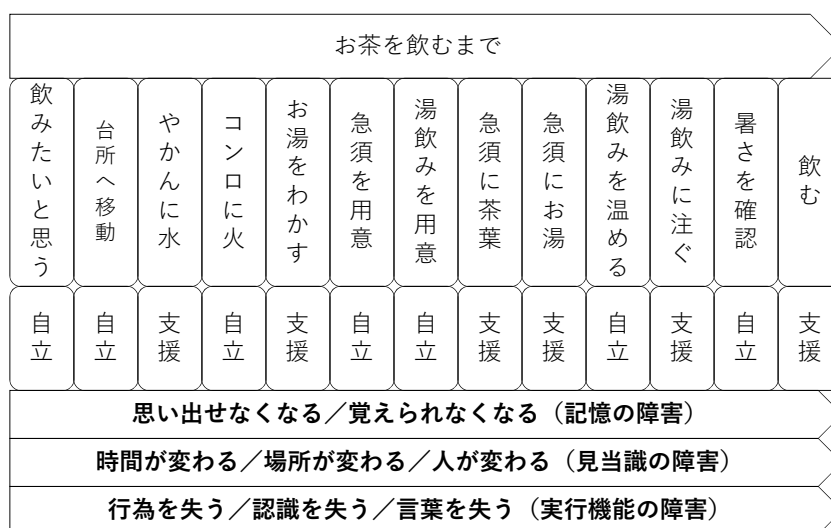
やかんをコンロに置く	お茶っ葉の入った筒のふたを開ける
コンロのダイヤルを回す	筒のふたを左手に持つ
火力を調節する	右手で筒を持ち
やかんの様子を気にかける	筒のふたに適量のお茶っ葉を入れる
お茶っ葉のある場所の見当をつける	急須のふたをとり
左手で食器棚の扉を開ける	急須にお茶っ葉を入れる
お茶っ葉の入った筒を探す	お湯が沸いたか気にかける
右手で食器棚からお茶っ葉が入った筒を取り	お湯の沸き具合を音でも確認する
出し置く	お湯が沸いたかどうか湯気の出具合で確認する
食器棚から急須を取り出し置く	お湯が沸いたことを認識する
食器棚から湯飲み茶碗を取り出し置く	コンロのダイヤルを回し火と止める
食器棚の扉を閉める	

～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係～

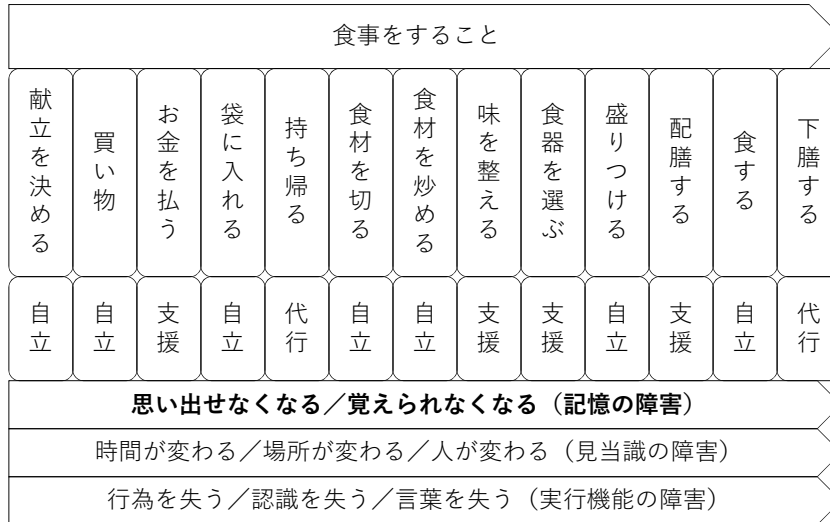
やかんを持ち上げ  
 沸いたお湯を適量急須に注ぎこむ  
 急須のふたを閉める  
 湯飲み茶碗にお湯を適量入れる（湯のみ茶碗を温めるため）  
 やかんをコンロの上に戻す  
 湯飲み茶碗のお湯を捨てる  
 湯飲み茶碗に急須に入っているお茶を注ぎこむ  
 湯飲み茶碗を持つ

居間へ歩く（慎重に歩く）  
 居間のテーブルにお茶の入った湯のみ茶碗を置く  
 両手をテーブルにつき座る（よっこらしょ！と口から出る）  
 楽な体勢になる  
 右手に湯飲み茶碗を持つ  
 左手で底を支える持つ  
 両手で丁寧に持ちゆっくりと火傷しないよう口元に近づける  
 熱さを確認しながら口に注ぎ込み飲む

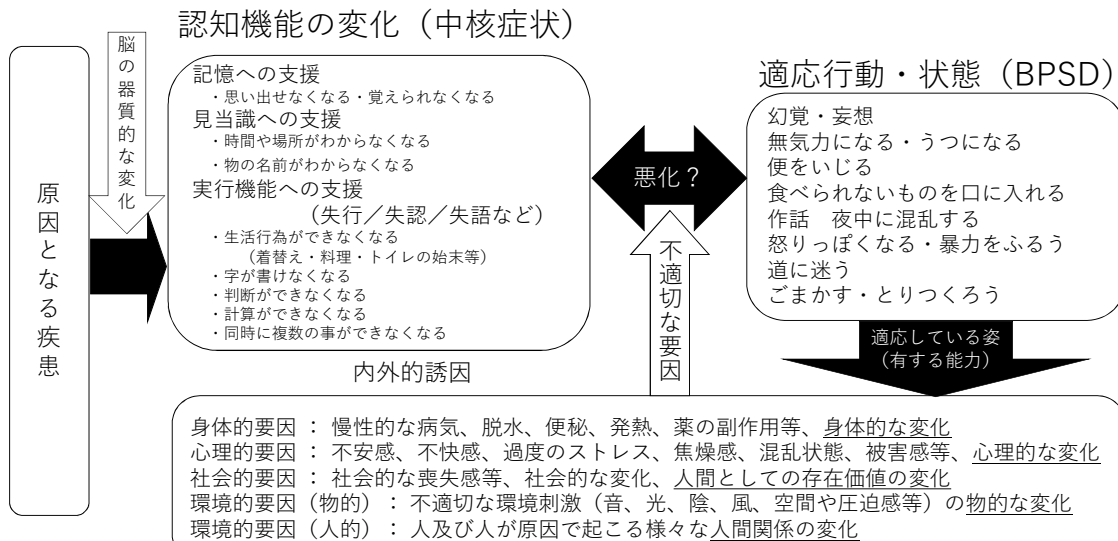
生活の支援のポイント 『生活の点の見極めから線へ繋げる（生活の再構築）』  
 認知症の状態にある人の生活行為の困りごとと支援の仕組み



生活の支援のポイント 『生活の点の見極めから線へ繋げる（生活の再構築）』  
認知症の状態にある人の生活行為の困りごとと支援の仕組み



『人』と『認知症』の繋がり図（全体像）



人（宮崎さん）の過去・現在・未来・終末

## 認知症というのは

認知機能の障害が複雑に絡み合うことによって  
生活がうまく具合にいかなくなってゆくことをいうのです

その人の持つ  
認知症をケアするということは

生活をベースに  
どの機能等が複雑に絡み合っ  
てうかかないのかを見極めながら  
支援してゆくことである

すべては  
繋がっているということ  
ですから  
その繋がりを大切にすることなんです

『人と認知症と向き合うために大切なこと』

## 『人と認知症と向き合うということ』基本 3ヶ条

### その1

身体と心、社会、環境、魂は本質的なところで互いに信頼し支え合っている。ホリスティック（包括的）に捉える支援が大切。

### その2

つまり、認知症そのものの介護するというよりも、その人の心の中にある感情を癒すことに目を向けるべき。

### その3

支援の本質は、人として生きてきた姿が尊ばれ、生きている姿に関心が向けられ、生きていく姿そのものの創造に役立てることだ。

## 認知機能の障害への支援

- 『手続き記憶に働きかける』
- 『見当識への働きかけ』
- 『実行機能への働きかけ』

# デイサービスの場合の 支援について

『在宅生活の繋がりと継続』

# 役割について

アンケート結果



- 入居者(利用者)の皆さんは
- ①どのような役割をしていますか？
  - ②若しくは、してもらっていますか？

質問項目

## 所属

- 老健 5
- 特養 6
- デイ 4
- グループホーム 8
- 訪介 1
- 小規模 2
- ショート 1

(認知症介護実践研修 修了者)

入居者(利用者)は、どのような役割をしていますか？若しくはしてもらっていますか？

順位	具体的な役割の内容	件数
1	洗濯物たたみ	12
2	おしぼりたたみ 掃除	9
3	テーブル拭き 食器洗い	8
4	食器拭き	7
5	調理(手伝い/切る・炒める・米とぎなど)	6
6	洗濯物を取り込む/配膳/洗濯干し	5
7	畑・花壇作業/盛りつけ	4
8	エプロンたたみ/牛乳パックをちぎってもらう	3
9	下膳/味見/お菓子づくり/縫い物	2
10	お茶入れ/カーテンの開閉/編み物/洗車/パソコン/縄ほどき 古新聞をたたむ/レクの声出し係/職員の手伝い/知恵袋 昔話/話し相手/人生相談	1

## 所属

- 特養 6
- デイ 4
- グループホーム 8
- 訪介 1

(認知症介護実践リーダー研修)

入居者(利用者)は、どのような役割をしていますか？若しくはしてもらっていますか？

順位	具体的な役割の内容	件数
1	洗濯物たたみ	9
2	掃除	5
3	食器洗い	5
4	調理の手伝い(味見・切る・炒める・米ときなど)	5
5	盛りつけ	5
6	配膳／片付け	4
7	洗濯物干し	3
8	テーブル拭き	3
9	汚れを襲えてもらう／他の入居者を呼びに行ってもらう／洗濯物を取り込む／新聞を棚(いつもの場所)に置いてもらう／自分の洗濯物をタンスにしまう／駄菓子屋の店員(ケアハウスの入居者)／知恵袋／昔話／話し相手／人生相談／外出時のカメラ係／肩もみ／サークル活動の時の指導役／ムードメーカーなど／庭仕事／雪かきなど／牛乳パックをひろげる	1

## 所属

事業所所属	人数
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	19
通所介護	7
計	27

入居者（利用者）は、どのような役割をしていますか？若しくはしてもらっていますか？

	具体的な役割の内容	件数
1	洗濯物たたみ	32
2	調理（下ごしらえ／むく／切る等）	24
3	食器拭き	23
4	洗濯物を干す	20
5	掃除（拭き／掃きなど）	19
6	テーブル拭き	15
7	食器洗い	14
8	配膳	11
9	片付け（下膳など）	10
10	洗面台の掃除／庭・畑の手入れ／買物（同行）／ゴミ集め・捨てる／縫い物／おやつ作り／カーテンの開閉／生き物の世話／作品作り 身の回りの整理整頓	9～ 2

## ひとつのこと

- トイレ掃除 洗面台の掃除 炒める 洗濯物をしまふ 買物の荷物持ち カートを押す 他の入居者のお世話 生け花を生ける 仏壇関係 お茶詰め 食前の挨拶 カレンダーの日めくり 盛り上げ役 メニューの紹介 帰宅時の挨拶 ゲーム 体操 新聞を取りに行く ゲームの補助

## 所属

事業所所属	人数
居宅支援事業所	29
訪問介護事業所	12
地域包括支援センター	10
小規模多機能	6
グループホーム	4
通所介護	4
訪問看護	4
介護予防センター	3
老健	2
サ高住	2
その他（家族）	14
計	90

入居者（利用者）は、どのような役割をしていますか？若しくはしてもらっていますか？

	具体的な役割の内容	件数
1	調理（下ごしらえ／炒める／味付け／米とぎ等）	47
2	食器洗い／拭き	47
3	掃除	37
4	テーブルの用意、準備	28
5	食後の片付け	15
6	孫の世話	15
7	庭・畑仕事	14
8	買物	13
9	洗濯物を干す	11
10	洗濯物をたたむ（6）／お茶入れ／仏壇の掃除／縫い物／新聞の整理／昔話／話し相手／人生相談／カーテンの開閉／シーツの交換	9～2

## ひとつのこと（役目）

季節の行事の飾りづくり キッチンペーパーの点線切り カレンダーをつくる  
 カレンダーをめくる 水くみ 調理の指導 ギターを弾く 車椅子を押す  
 お風呂の準備（お湯を入れる／着替え） ストープに灯油を入れる 縄結び  
 好きな仕事をその日にしてもらう 作品を誉める メモ帳づくり お手紙配り  
 安心感を与える タオルの管理 もちつき 簡単な記録の手伝い  
 薬を取り出して飲む ゴミステーションの清掃 レジ袋をたたむ お化粧の手伝い  
 語り部 ミシン掛け 手を握る 好きな歌をうたってもらう お裁縫を教える  
 訪問に行く職員に気をつけてをこえがけしてくれる カラオケのセット  
 レクリエーションの協力 デイサービスへ行く 家計簿をつける 日記をつける  
 他者への介助 お風呂の栓をする 家の中での大黒柱 ポストの受け取り点検  
 電話番 戸締まり確認 笑顔を見せる 昔の歌をうたい懐かしむ  
 人間教育を教える 来客の対応 他の利用者の面倒を見てもらう  
 得意な事をみってもらう お布施を渡す 子供達の指導

## 結果

- 彼らはいつも片付けばかりさせられているようだ。
- 施設、介護職側が考える『役割』を行っている傾向が垣間見られる。
- 主体的に生活を営むように支援するというよりは介護職の『手伝い』という感覚が否めない。
- 介護職用専門用語が生まれる  
     「洗濯物をたたむ」⇒「洗濯物畳み」
- 認知機能への働きかけ（支援）を意識していない⇒すべてが単発でその場限りが目立つ。

## 考察

- 何らかの役に立っているという、若しくは役に立ちたいという『主体的な役割』という認識を見出すことができれば、お互いの有する能力に応じた共同生活を営むことができる。
- 自宅で生活している方々の『役割』の在り方へ近づけてゆく支援（生活の再編）が必要である。

ひとは  
どのような状態であっても  
感情・感性は最期まで  
そこに「在る」ものです

悲しみ・怒り・羨望・不安・愛

感性とは  
すでにそこに在るものだ！

By おれ

爺様からの手紙

朗読します



## 『手紙』 ～ 願い ～

- 前略 専門職の皆さんへ
- 私、88歳、男、アウルで生活して5年が経つ。これは、私の叫び  
 というか、世の中に言いたい願いでもある。私は、ゴミを集めるの  
 が使命？というか、あんた方介護する人の間では「収集癖」と言う  
 やっかいな事のようなのだが、私にとっては趣味というよりリサイクル  
 活動のようなものなのである。そんな集めたゴミを勝手に捨てられ  
 てしまえば、誰だって嫌な気持ちになる。ちょっと怒ったら、あん  
 た方は「暴言」だの、「暴力行為」だのと言う。今回は、そんな趣  
 味が高じてもの作りに発展していった話を、家（うち）の社長を通  
 してお伝えしてもらったことにした。

## 今この国で起っている介護現場の実態

- 一般的に世間では私のような年寄りを「ボケ」老人という。専  
 門的には「認知症高齢者」って言うみたいだ。しかし、私は叫  
 びたい。そんなボケ老人にしたのは、あんた方介護をする人で  
 はないか。社長にもよく言う。私達にだって考える力はある。  
 感じる力だって、行動力だってある。それを、全部あんた方、  
 介護をする人がやってしまう。年寄りを大事にするというこ  
 とを、あんた方は履き違えている。大事にするということは、何  
 でもかんでもやってあげることじゃない。人間楽を覚えるとそ  
 れに慣れてしまうものである。それは、私達の弱さでもある。  
 それは認める。ましてや年寄りだ。そんな機会を奪わないで欲  
 しい。

## どう生きてきたか／自分の身体に起っていること

- 私は、昔ブリキ職人として働いた。自転車屋もやった。自転車の修理の手際よさを気に入られて、国鉄でも働いた。退職して、町内会の仕事をした。在家の坊主もやってる。今でも葬式でお経も読む。なんでも自分にできることはしてきた。でも、年を取ってくると記憶が定まらなくなってしまうことが、度々起きるようになった。心臓もいいほうじゃない。フランドルテープって言うのを貼っている。目も片方はほとんど見えない。世間で言う、身体障害者だ。手帳もある。それが、ある日突然「ボケ」だと言われて見れ、びっくり仰天だ。それでも、自分でしたいという願望は今でもなくなる。

## 主体性と選択性の実現

- 社長が、ブリキ職人だった頃の道具を持ってこいと言うので、部屋に持ち込ませてもらった。その道具を使って、あらゆる物を創作した。もちろん、ゴミでだ。今日は、その一例を紹介する。社長にはいつも言っている。全国に広めて欲しいと。こんなにできる年寄りも、日本には五万といることを。伝えて欲しい。私達にできることを奪わないで欲しい。伝えて欲しい。私達にも感じる力はあることを。伝えて欲しい。私達にも、行動力があることを。できれば、あなた方の専門性を、そのことに生かせるよう研究して欲しい。いつかあなた方もそこにたどり着くだろうから。

## 共有／共感の実現

- 今日、ひとつ皆さんに私が創作した物を作ってもらおうよう社長にお願いした。それを是非お土産に持って帰って欲しい。全国にいる人たちに知らせたい。それが私の願いだ。こうやって頑張っている年寄りもいるということをお手紙読んでいただいて、ありがとうございました。皆さんも御身体ご自愛下さいませ。
- (この手紙はご本人と協同で考え執筆したものであり、内容及び発表することについては、本人の同意を得ているものであります)

爺様の主張を実体験してみます？  
～ある作品づくりからの主張！～

『こういうことをやってるとボケてる暇がないんですよ』

**爺様曰く**

**『これはボケに効くんです。**

**学会でも発表されているんです。**

**私はテレビで見たんですから間違いない！』**

**確かに！効く！**

## 爺様の遺言

- 『投げる物の中に宝はあるんだよ』
- 『空き缶で作っている時が一番楽しいね。頭で考えなくても手が動いちゃってるもんだから』
- 『何でも出来上がるまで努力してみる事だね。失敗したらどうして失敗したかを考えてみて、失敗してわかるんだから。頭で考えたんではダメなのよ。あなたもやってみなさい。やってみる事が大事だね』
- 『人に助けられればね、自分も何かしなきゃならないという考え方になるはずですよ。何でもいいから人に喜ばれる事をしたいなと』

## 私たちのやりがいとは？

- 爺様で言えば
- 爺様の力（自治力）が十分に発揮されること
- そして爺様が最後まで生きぬくこと
- 爺様に対しどれだけの事をしたかではなく、彼の生き方にどれだけ心を込めたか

そのこと自体が爺様の喜びとなり、私たちの喜びとして感じられた時、本当の意味において相互に生きがいややりがいを感じることができる

コミュニケーションは  
するものではない

コミュニケーションは  
そこに在るものである

存在そのものが支援である

By おれ

『まとめ』

一貫性

前提を変える

『の』から『と』へのすすめ

## 「認知症の人」への提言

- 認知症のケアなのか？
- 人のケアなのか？
- 認知症の状態をケアする
- 人が生きることを支援する
- 認知症の理解
- 人の理解

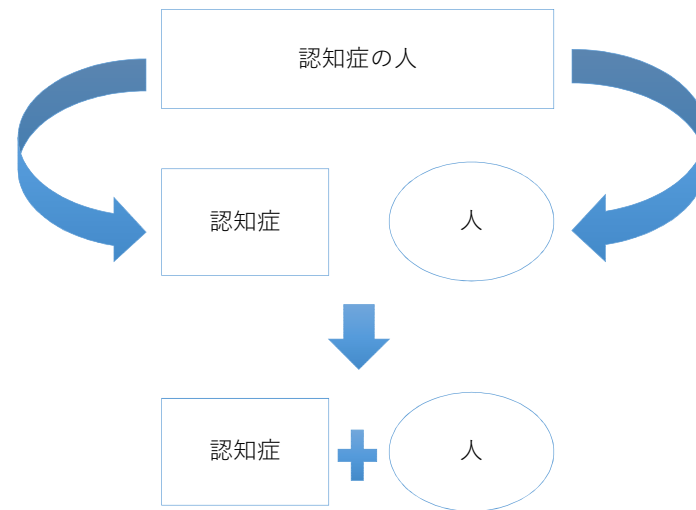
それぞれ別々に考えてみる

別々に捉えた（考えた）上で  
足して考えてみる  
すると

認知症を持つ『人の姿』が見えてくる



## 『認知症』と『人』の図解



これまで から これから

### 認知症⇒人

- ⇒ 認知症の人・認知症高齢者
- ⇒ 認知症の宮崎さん
- ⇒ 便を壁に塗り付ける
- ⇒ 弄便行為
- ⇒ つなぎ服

### 人⇒認知症

- ⇒ 認知症と人
- ⇒ 宮崎さんに認知症
- ⇒ 便を壁に塗り付ける
- ⇒ 便の処理が困難
- ⇒ 事前のアセスメントを充実
- ⇒ 生活のピンポイントの支援

『の』から『と』へ

『認知症の人』

『認知症』と『人』



認知症を通して人を一括りに捉える文化

人と認知症をそれぞれ捉える文化

「認知症」と「人」を理解するとは

1) 「認知症」を理解するということ

脳の障害によって起こる病気を理解する（専門職として必須の知識）

原因疾患の特徴を理解する（原因と臨床的特徴）

原因疾患別のケアのあり方を理解する

2) 「人」を理解するということ

性格傾向の理解：気質、能力、対処スタイル

生活歴を理解する：本人の人生の歴史を理解する（物語を理解する）

健康状態・感覚機能（視力や聴力等）の理解

その人をめぐる社会心理学的状況の理解：社会との関わり、人間関係のパターン

出典) 認知症介護研究・研修センター監「認知症介護基礎研修標準テキスト」.48,ワールドプランニング.東京 (2015)

「目を開けて  
もっと私を見て！」

イギリス ヨークシャー  
アシュルディー病院の  
老人病棟の奇跡

### 3つの大切なこと

- ①『自分のことは自分ですること』
- ②『お互いに助け合うこと』
- ③『社会と繋がっていること』

## 「帰りたい」

あなたはどうか対応しますか？

「帰りたい」⇨帰宅願望・帰宅欲求なんかじゃない

「帰りたい」って言う人がいます。「帰りたい」のは山々だけど、「帰れない」ことも薄々感じています。本当は、「帰れない」けど「帰りたい」という気持ちをただわかって欲しいだけなのです。みんな「帰りたい」でも「帰れない」。人は本当の気持ちを言いません。本当は「私の気持ちをわかって」「帰りたい」気持ちをわかってもらえなくて悲しいのです。そう言っているだけ。一度その気持ちを受け止めて心から聴いてあげて下さい。「帰りたい」という気持ちと、「帰りたくなる」私の周りの私の扱いに気づいて下さい。洗濯物をたたむことで誤魔化さないで下さい。料理をつくることで誤魔化さないで下さい。レクや療法をして誤魔化さないで下さい。ドライブや買い物で誤魔化さないで下さい。「帰りたい」気持ちの裏に耳を傾けて欲しいだけです。「帰りたいですね、わかりました」と一言でいいから、気持ちを受け止めて下さい。まずは「はい、わかりました」と、ただそれだけでいい、わかって下さい。

大切なキーワード

## 声なき声を聴く

声なき声に耳を傾けること

皆さんお疲れ様でした。  
ありがとうございました。